

空軍ニュース：中国が中国版 SU-35 の開発を開始

漢和防務評論 20161106 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ロシアの新鋭戦闘機 SU-35 は今年末から中国に手渡されるということです。中国が同型機を欲しがる理由は、搭載されている 117S 型エンジンの獲得にあります。中国は、すでに中国版 SU-35 の開発を開始しており、AL31F 型エンジンを搭載した J-11D 型でアビオニクスを試験を行っているようです。搭載予定のファンをサイズアップした国産“太行”エンジンは未完成ですが、中国技術者によると、中国のエンジン技術は、ロシアに依存しなくともよいレベルにきているとのことですが、KDR の推測では、中国が契約以上の数の 117S エンジンを欲しがっているところから、中国版 SU-35 もロシア製 117S エンジンを搭載する可能性があると見ています。

KDR ロンドン平可夫、北京 JOHN CHANG 特電：

ロシア聯合航空機集団公司総裁 YURY SLYUSA は、ファンボロー航空ショーにおいて、KDR の独占取材を受けた。その際、SU-35 の対中輸出の時期について、次のように述べた：我々は、契約に従って今年末から中国に SU-35 を引き渡す。現在、すべての計画は順調であり変化はない、と。

KDR：聞くところによると、中国はより多くの 117S エンジンの取得を希望しているとか？

この質問に対して SLYUSA は：その状況は知らない。SU-35 の対中輸出はすでに契約書に署名し、現在はその通り義務を履行するだけである、と述べた。

ロシアの戦闘機輸出規則によると、双発戦闘機の予備エンジンの数は 2 基である。したがって 24 機輸出するのであれば、中国は予備エンジンとして 48 基の 117S エンジンを受け取ることになる。

その他、匿名を希望したロシア航空工業会の権威筋は、KDR に対し：正式契約には、SU-35 各機について 6 基のエンジンを提供する項目は存在しない。これは中国側の希望かもしれないが、これらの要求は今後補備協議の場で協議することになる、と述べた。しかもこの種の協議は、ロシア側は聯合発動機集団公司、国家武器輸出入総公司が担当する。したがってロシア聯合航空機集団の一部官員は今後の補備協議において中国に輸出される 117S エンジンの具体的数量が協議されることは知らないはずだ。これは当たり前といえる。

ロシア航空工業界の一部の人は、中国が開発する次世代戦闘機にこのエンジンが使われる可能性がある、と見ている。

ファンボロー航空ショーの少し前の時期に、中国航空工業界の権威筋は、KDR に対し、相当重要な戦略情報を吐露した：すなわち中国は、すでに次世代型となる J-11 戦闘機の改良型の開発に着手した、と。基本となる背景は次の通り：次世代型戦闘機である J-20 を大量かつ迅速に部隊配備することはできない。J-20 は現在依然として試験飛行の最終段階にあり、2017 年には部隊での試用段階に入らなければならない。したがって中国空軍は J-20 の装備を急ぐと同時に、J-11 の改良も重要な装備の方針である。その基本的構想は、ロシアの SU-35 の開発構想と同じである。すなわち、現在すでに”太行”エンジンの改良を開始した。エンジンのファンの寸法を大きくし、推力を増大する。このほか、J-11D 改良型戦闘機を開発を基礎にして、胴体後部を再設計し、新たな大型ファンの”太行”エンジンを取り付ける。現在試験飛行している J-11D は、ロシアの AL-31F エンジンを使用している。

これは、中国航空工業界の権威筋が初めて西側に J-11D の存在を認めたものである。”現在 J-11D は、すでに試験飛行を開始している。SU-35 と異なるところは、J-11D は AESA レーダー (SU-35 は IRBIS-E PESA パッシブ・フェーズド・アレイ・レーダーを使用) 及び”太行”エンジンを使用する。中国の官側報道によると、同エンジンはすでに 400 基生産し部隊に装備している。鋭意改良を重ねつつあるという。中国は、航空エンジンのための投資を増やすため、ロシアの聯合発動機集团公司に似た部門を設立し、多くの発動機企業を聯合する方式で”太行”エンジンの改良に取り組んでいる。

KDR が 117S エンジンに中国版の SU-35 あるいは J-20 に搭載する件について質問したところ、中国航空界の消息筋は：外部世界は、中国のエンジン開発速度を低く評価しているが、實際上、過去 2 乃至 3 年で投資は相当増加している。過去は、確かに AL-31F エンジンを大量に J-15 および J-11B に搭載したが、今後は大量の 117S を J-11D 改良型や J-20 に搭載する可能性は少ない、と述べた。

当然中国は、輸入した SU-35 を参考にして、ロシアが SU-27 から SU-35 に進化させた具体的方法、および技術を学ぶことは可能だ。消息筋は、中国の軍用航空発動機工業が、すでにロシア製エンジンを流用する段階を脱した、と述べた。

以上のごとく、中国が 24 機の SU-35 を輸入した根本目的が明らかになった。實際上、これは当時中国が 24 機の SU-30MK2 を輸入し、それを基に国産 J-16 を開発した考え方と同じである。すなわち：中国はすでに中国版 SU-35 の開発計画を制定し、すでに J-11D を使って諸々のアビオニクス系統及びレーダーの実験作業を行っている。この機体を基礎にして、ファンを大きくした”太行”エンジンに換装し、中国版の SU-35 とするようだ。

消息筋は：現在瀋陽航空機会社は、中国版 SU-35 の型式名称を決めていないがひょっとすると J-11F の類になるかもしれない、と述べた。

KDR：なぜ J-11C ではないのか？

消息筋：J-15 の内部での名称は J-11C である。したがって中国版 SU-35 は J-11 以外の数字を使った型式名称になる可能性がある、と。

消息筋はこのように述べたが、KDR は、過去の経験から、中国版 SU-35 は J-11D の後部胴体を再設計し、試験飛行で使用している 117S エンジンを搭載する可能性を排除していない。

スホーイ航空機会社の技術専門家は、中国版 SU-35 の開発をどう見ているか？
以下は、KDR の質問に対するスホーイ設計局専門家の回答である：

” SU-35 の輸出入問題を巡って、中国側は最近、航空工業、軍事代表団を含む各種代表団を常時ロシアに派遣し、各種交渉を集中的に行っている。当然我々は、中国版の SU-35 開発計画を知っている。しかし我々は、中国軍の代表団および工業界の代表団の自国の戦闘機開発能力に対する評価がまちまちであることを発見した。中国工業界のグループは、自力開発ができないはずはないと思っている。しかし軍の代表団は、我々に率直に述べた：ロシアの技術は成熟している、と。したがって我々は：中国版 SU-35 の開発は容易ではなく、技術の消化に相当の時間が必要と思う、と述べた。

KDR：J-16 及び SU-30MK2 の例から見て、中国は第二グループの SU-35 を輸入せざるを得なくなる可能性が極めて高い、と我々は考えている。これはあなたの方が望むところであろう。24機の SU-35 を輸入したのち、彼らは研究を重ね、J-11D を基礎にして自らの SU-35 を開発する。

J-15 艦載機の生産は、なぜこれほど遅いのか？

これに対して中国航空工業界の権威筋は KDR に対して：J-15 は継続生産される。生産速度は確かに遅い。年産数機ペースである。その理由は、部品生産が遅いからである。新型機の実験機とはこんなものであろう。外国も同じようだ、と述べた。

以上